

鳥取の民話

収録・解説 酒井董美 たけよし

37

あらすじ

語り手 大原寿美子さん (明治40年生まれ) 昭和54年10月9日収録

隣のおばあさんが聞いて、「そうか、そうか、おじいさんを座らして、

うらもお地蔵さんを信心してみよう」と言った。隣のおばあさんが聞いて、「そうか、そうか、おじいさんを座らして、

隣の爺も糊かぶりまねる

昔、おじいさんが「ばあさん、うらは畑を打ちに行つて、座つたるけえ、糊を煮て頭からかぶしてごせえや。お地蔵さんになるけえ」。おばあさんも承知してそのようにしてあげた。

そつしたところ猿が出てきて、「おじいさんに白子地蔵さんがおられる」「ええもんを持ってきてすえよ」「とあれこれと食べるもんから、お金からいっぺえすえた。おじいさんは晩にお金をみんなもらつて戻つ

猿地蔵

(八頭郡智頭町波多)



イラスト・福本隆男

すえて、「お地蔵さんじゃ、お地蔵さんじゃ」言
いおつたら、欲ばりじいさん、気をせったか、つ
いおかしゅうなつて、ヒ
ユツと笑つたら、「こり
蔵」に相当し、以下のよ
うに紹介されている。
1、爺が (a) 小鳥が
畑を荒らすのでからだに
色をぬつて座っている。
2、猿が地蔵さまだと
いって (a) 爺を棲家 (す
みか) に連れて行つて、
木の宝・銭・宝物を供え
る。
3、隣の爺がまねる。
川を渡るときに猿の歌を
聴いて笑つたので、人間
だといつて (a) 川に捨
てる。または (b) 傷を
負わせる。
大原さんの語りもこの
範疇に当てはまるので
ある。
(元鳥取短期大学教授)
(水曜日に掲載)

解説